

# 先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	サイバネティクス・リアリティ工学 (清川 清 (教授))		
学籍番号	2011222	提出日	令和 4年 1月 21日
学生氏名	馬場 建		
論文題目	アニメシー知覚を用いた内部状態のAR提示が家電使用時の不快感と行動に与える影響		
要旨			
<p>家電製品を使用するにあたり、事前に家電製品の状態を知る必要があることや、疲労を伴う操作があるため、行動前に意欲を向上させることから終了にかけて煩わしさを感じる場合がある。本研究ではこの煩わしさの解決のために、AR (Augmented Reality) を用いて家電製品自体に生き物化した家電製品の3Dモデルを重畳し、アニメシー知覚 (観察対象に生き物らしさを感じる感覚) を生起させるシステムを提案する。提案システムでは家電製品の内部状態をもとに、生き物の振る舞いとして状態を表現する。家電製品の1例である冷蔵庫について、アニメシーを付加した見た目や振る舞いが自然に感じられるように、フォーカスグループを実施してデザインを決定した。これをもとに試作システムを実装し、印象評価をするためにテキスト提示手法を比較対象とした実験1を実施し、冷蔵庫を操作する際の不快感を調査した。実験1の結果、提案手法ではアニメシー知覚の生起と親近感の向上が見られ、不快感低減の可能性や学習コストの低さが示されたが、行動を強制する力が強い問題があった。実験2では、アニメシーの条件に周囲の人との関係がわかるかのような振る舞いを付加して知性を高めることで、不快感に悪影響がないまま作業の区切りに行動し始められるかを調査した。実験2の結果、テキスト・アニメシー・知的の3条件で不快感低減や作業に取り掛かるタイミングに違いが見られなかった。本研究の最後に、センシング処理の実装を行い、実利用に向けて状態提示の自動化を行った。</p>			